

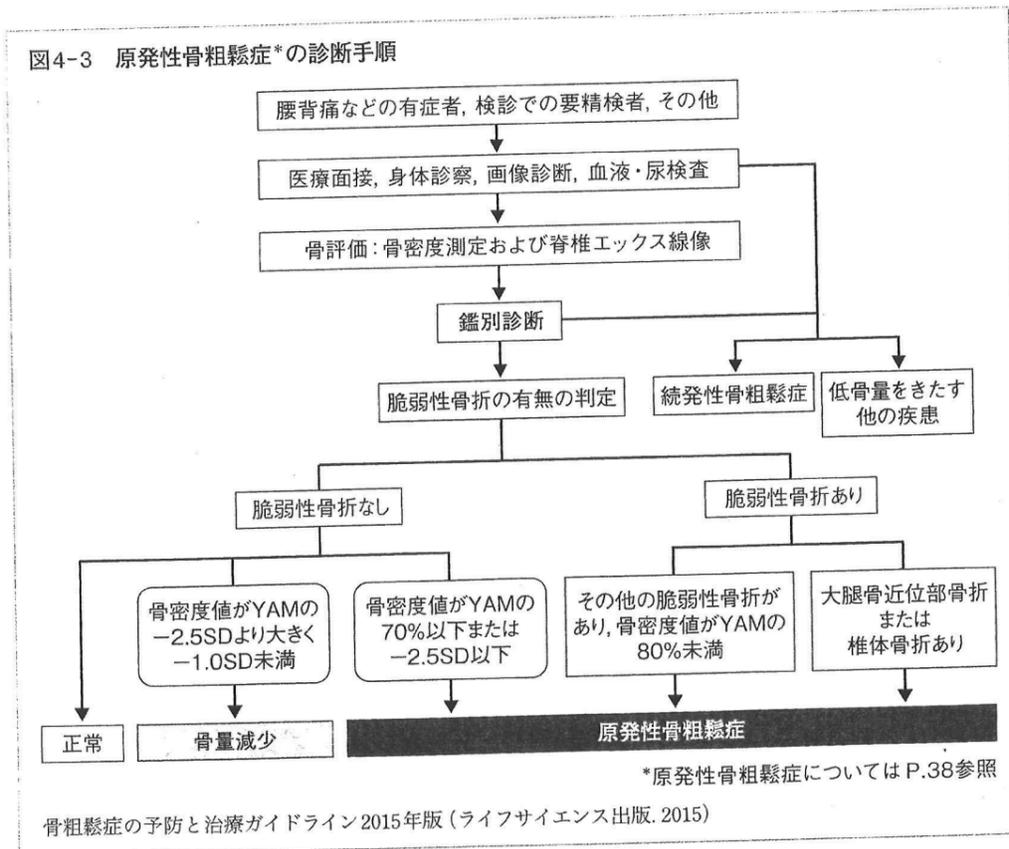
## 2 精密検査・鑑別診断

### ● 要精検者に対する診断ステップ

検診で「要精検」と判定された受診者を紹介された医療機関では、あらためて医療面接、骨密度測定、脊椎（胸・腰椎）のエックス線検査、および血液・尿検査を行う。骨粗鬆症が疑われる場合（骨密度値がYAMの80%未満）は、まず他疾患との鑑別診断を行い、続発性骨粗鬆症や低骨量の原因となる疾患などがなければ、脆弱性骨折の有無をもとに確定診断が行われる（図4-3）。

### ● 鑑別診断のための検査

骨密度値で骨粗鬆症が疑われても、他の疾患が原因で低骨量を来している場合や、続発性骨粗鬆症の場合もあるので（表4-1）、医療面接や各種検査の結果で異常や問題があれば鑑別診断のための検査が行われる（図4-4）。



鑑別のための検査には副甲状腺ホルモン（PTH）、性ホルモン（テストステロン、エストロゲン）、性腺刺激ホルモン（FSH、LH）、甲状腺ホルモンなどの測定のほか、CT、MRI、骨シンチグラフィなどの画像検査も行われる。これらの検査の結果から原発性骨粗鬆症以外の疾患が疑われる場合、原疾患の確定にはそれぞれの疾患に対応した検査が必要である。

### ● 男性の低骨量者への対応

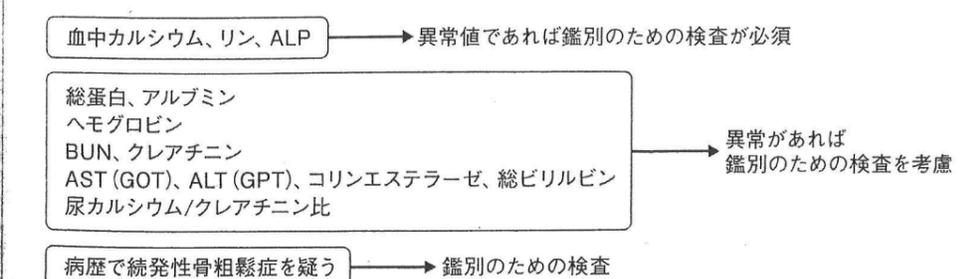
男性の低骨量者の中にはステロイド服用、性腺機能不全、関節リウマチ、アルコール依存症などによる続発性骨粗鬆症患者が多いので、注意を要する。

表4-1 骨粗鬆症と鑑別すべき疾患

続発性骨粗鬆症		低骨量を呈するその他の疾患
<b>内分泌性</b> 副甲状腺機能亢進症 甲状腺機能亢進症 性腺機能不全 クッシング症候群 <b>栄養性</b> 吸収不良症候群、胃切除後 神経性食欲不振症 ビタミンAまたはD過剰 ビタミンC欠乏症 <b>薬物</b> ステロイド薬 性ホルモン低下療法治療薬 SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬） その他（ワルファリン、メトトレキサート、ヘパリンなど）	<b>不動性</b> 全身性（臥床安静、対麻痺、廃用症候群、宇宙旅行） 局所性（骨折後など） <b>先天性</b> 骨形成不全症 マルファン症候群 <b>その他</b> 関節リウマチ 糖尿病 慢性腎臓病（CKD） 肝疾患 アルコール依存症	各種の骨軟化症 悪性腫瘍の骨転移 多発性骨髄腫 脊椎血管腫 脊椎カリエス 化膿性脊椎炎 その他

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版（ライフサイエンス出版. 2015）

図4-4 他疾患との鑑別のための検査



厚生省老人保健福祉局老人保健課. 老人保健法による骨粗鬆症予防マニュアル（2000）、一部改変